

米倉教公の週間為替市場見通し

6/12 日週号

ドル/円予想レンジ 108.20 - 112.00 円

『14日 FOMC で年内の利上げペースに注目！』

■前週の市場動向：ドル/円は上値の重い展開！

前週のドル/円週足では、迷い線となる十字線となった。週明けは、日経平均株価の上昇を受けて 110.70 円付近まで上昇したが、中東 5 カ国がカタールとの国交を断絶したことから原油価格が下落しドルの上値を抑えた。6 日は、日経平均株価が下落したほか、中国が米国債の保有額を増額すると伝わると短期筋の仕掛け的なドル売りで 110 円台を割り込んだ。7 日は、コミー前 FBI 長官お議会証言、ECB 理事会、英国総選挙を控えて、リスク回避の円買いに傾いた。しかし、コミー氏の証言内容が事前に公表され、これまでの内容に大きな変更がないことが確認されるとショートカバーが加速した。8 日は 110 円台に回復したものの、『日銀、出口議論は時期尚早から説明重視に』との一部報道が伝わると 109 円台前半まで失速した。ただ、下値も限定的で、海外時間に入ると株高・米朝期金利上昇を受けて 110 円台前半まで上げた。9 日は、英総選挙の出口調査で与党保守党が過半数割れとなることが伝わると、ポンド急落に伴って下押ししたが、その後は日経平均株高や米長期金利上昇を支えに 110 円台を回復した。

■今週の注目点：14日 FOMC で年内の利上げペースに注目！

今週の注目点は FOMC となり、今会合での利上げは市場に織り込まれており、利上げ自体は材料視されることはない。市場では年内あと何回利上げが行われるかが注目点となっている。直近の米経済指標では、強弱まちまちの結果となっており、やや米経済に陰りを見せ始めている。そのため、積極的に利上げを推し進める意向を示してくると可能性は低い。3 月時点では 2017 年末の FF 金利見通しは 1.375% だった。この FF 金利見通しを変更してくるのが特に注目される点である。上値目途は、200 日線の 110.48 円を上回るかが重要ポイントとなる。9 日高値の 110.81 円、節目の 111.00 円、75 日線の 111.87 円、17 日大陰線の半値戻し 111.96 円、下値目途は、節目の 110.00 円、8 日安値 109.38 円、4 月 17 日安値 108.14 円となる。ここを下抜けしてしまうと、ダウトレンドが復活し一段と下落リスクが高まる可能性も。

■テクニカル的な見解：テクニカル的には 200 日線を上抜け出来るかが焦点！

シカゴ IMM 投機筋の 6 月 6 日付け対米ドルの差し引き持ち高は、円は前週の▲52,275 から▲55,027 へと売り持ちは前週から増加した。パラボリック (パラメータ : 0.08, 0.3) では、6 月 9 日から買い転換となった。12 日の SAR は 109.06 円まで上昇すると売り転換となる。MACD (パラメータ : 12, 26, 9) では、MACD とシグナルがデッドクロス継続。ストキャスティクス・スロー (パラメータ : 14, 3, 3, 20, 80) では、%K : 32.03、%D : 22.30 と戻り基調となっている。75 日線 (紫線) がほぼ横ばいとなっている一方、200 日線 (茶線) がレジスタンスラインに。ロウソク足は、前日ロウソク足に対して上値・下値切り上げとなっていることから戻り基調となっている。戻り基調にあるものの、200 日線を上回れるかがカギとなる。週末には一旦上抜けしたものの、引けにかけて下回って終了した。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。



★前週の気になる出来事

今年も英国がやってくれましたとばかり、当初は与党・保守党が圧勝の雰囲気から、野党・労働党が終盤巻き返し議席数を増やした。その一方で、過半数超あった保守党は過半数割れとなる大ドンドン返しの結果となった。絶対多数の政党のない議会のなか、EU 離脱交渉に不透明感が広がっている。メイ首相の進退にも不透明感が強い。傍から見てみると、自分で墓穴を掘って、その中に自ら落ちたとしか言えない。限られた時間内で EU からの離脱交渉が出来るのかという不安感も市場に漂っている。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 28 食産第 3988 号,経済産業省 20161108 商第 10 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365 - 為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額 = 取引単位 (元本金額) × 4% × (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。